発問例

●二二五ページ

問 **◉「肩や背中から急に力が抜けていくような感じ」（11 行目）は、事態に対する「彼」のどのような感じ方を表しているか。**

答 もはやどんな抵抗をしても無駄なのではないかという空虚感。

補 身体的な反応で実感的に表している。

問 **「目を吊り上げて、唇の端に泡を少し出して」（16 行目）いることから、電気屋のどのような様子が分かるか。**

答 単に怒っているだけでなく、怒りのあまり興奮している。

●二二六ページ

問 **「彼」が「うんざり」（8 行目）しているのは、なぜか。**

答 名乗らず用件も言わない相手に怒りをぶつけられる理不尽さに加え、軽蔑したような態度を取られ、自分の家を侮辱されたから。

●二二七ページ

問 **◉「現に僕がさっき何度、…思います？」（4 行目）には奇妙な理屈が含まれている。それはどのようなことか。**

答 「彼」は電気器具を求めていない。電気屋が自分の都合で訪問しているにもかかわらず、相手に行為の責任を負わせ、迷惑をかけられたと決めつけていること。あるいは、玄関からの呼び声が聞こえない事態は、電気屋が意図的に引き起こしたにもかかわらず、ブザーを設置しなければならない不便さがあらかじめ存在しているように言いくるめているから。

問 **◉「ブザーやベルの音は嫌い」（8 行目）なのは、「彼」がどのようなコミュニケーションを望んでいるからか。**

答 「ごめんください、という声を聞けば、…わけにはいかない」（二二七・10～二二七・11）、「友達のブザーも、…よっぽどいい」（二二七・12～二二七・15）から、どんな人でも均質なブザーの音に変換されるのではなく、その人の個別性を認識した上で関わりたいと思っている。

●二二八ページ

問 **「その自分の引き下がり方が、今のこの写真屋の場合とそっくりだ」（7 行目）とあるが、どのようなところが似ているのか。**

答 相手の理屈を封じるような反論ができず、言葉が出てこないままに家への侵入を許しているところ。

語句の研究

●二二五ページ

キー・ポイント　あまりにもピタリとした答え方だったので、彼は二の句が継げずたじろいだ。　「ピタリと」はきちんとした強い調子で物事をするさま。「たじろいだ」はひるむの意。この一文で、威圧的な顎鬚と、その勢いによって意気を削がれる「彼」との対比関係が簡潔に示されている。

12 いまいましい　腹立たしい。靴を脱がなければではなく「脱がさなきゃ」（二二五・12）と言う限り、この気持ちは「彼」自身に向けられている。

15 もう少し　既に少しの意。

●二二六ページ

3 奥の間　家の奥の方にある部屋。奥座敷。

4 コマギレ住宅　コマギレは細切れとも小間切れとも書き、いずれにしても「彼」の家の小ささや狭さの謂いである。屋内が細かく区切られた住宅。

5 控えの間　来客用の部屋、主の部屋といった主要な部屋に隣接し、家の使用人が待機

場所として使用する小さい部屋。

キー・ポイント　ベルかブザー　ベルは、鐘や鈴、またはそれに似た音を出す装置のこと。ブザーは電磁石で振動版を振動させて音を出す装置。電気屋は最初「ベルを付けなさい」（二二六・7）と言っていたが、途中からブザーを取り付ける方向に転換している。これはベルでは「家が小さすぎる」（二二六・10）からである。ここでも「彼」の家の小ささが強調されている。

●二二七ページ

キー・ポイント　電気屋の残った足も上に上がってきた。　足自体が一つの生き物であるかのように擬人的に表現することで、電気屋の体の動きと発話を切り分けつつ、双方が同時に進行していることを効果的に示している。このように、体のパーツを人物と切り離すような表現は、「ボタンを押し続けていたのは、顎鬚男の親指だった。」（二二二・3）、「イガクリはしきりに手足や機械を動かした。」（二二四・14）などにも見られる、この作品の特徴である。

3 三寸　およそ九センチメートル。

10 おおよその性格が見当つく　はっきりしていない来訪者の性格について、大体の予想ができる。

13 保険勧誘人　現在は「生命保険外交員」、「生命保険外務員」と呼ばれる。生命保険会社に所属し、家庭や会社などを回ってその会社の保険契約の締結を媒介する者のこと。

16 失笑　笑ってはならないような場面でおかしさに堪えきれず、吹き出して笑うこと。

●二二八ページ

キー・ポイント　トクをするのはあなただけじゃないですか。　来訪者の声がけという行為をめぐって、それを損得で捉える電気屋に対しては、表記においても違和が表明されている。それが「トク」というカタカナ表記である。来訪者の肉声を聞いて何者かを見定めたいという「彼」の欲望は、損得勘定を根底に据えていない。ゆえに電気屋の理解は「彼」の発言の要点を無視し、話を逸らす以上のものではない。こうしたずれは電気屋だけでなく写真班の二人にも見られる。

6 うやむやのうちに　事態がはっきりしないままに。この中には、来訪者の肉声かブザーかという議論の決着と、ブザーを取り付ける手続きとの両方が含まれる。

注意する語句

（＊で用例を示した）

二の句が継げない…呆れや驚きで次にいう言葉が出て来ない。
＊怒鳴られて二の句が継げなくなる。

目を吊り上げる…怒っているさま。目に角を立てる。
＊無神経な言葉に彼は目を吊り上げた。

いきり立つ…憤怒し、興奮するさま。
＊理不尽な要求に群衆がいきり立つ。

うんざりする…同じことが何度も繰り返されたり、同じ状態が続いたりして、あきあきするさま。
＊彼女のわがままな言動にうんざりする。

踵…かかと。あくつ。あくと。
＊踵を揃えて立つ。

身勝手…自分の都合や利益だけを考えて行動すること。自分勝手。
＊身勝手な言い分に腹が立った。

身をよじる…体をひねるようにくねらせる。
＊悲しみに身をよじって泣いた。

いまいましい…ひどく腹立たしい。癪に障る。
＊突然の雷雨に、彼はいまいましげに空を見つめた。